



JON 30周年記念事業
次世代を担う人材育成プロジェクト

「新自然塾」

団体設立趣意書 / プロジェクト概要

Prospectus and Request for Cooperation

Long-Term Camping Project
with the Aim of Building a Foundation for
a Whole Person Learning and
Spreading its Awareness

2022年12月

「新自然塾」推進委員会

Committee for Brand-New-Japanese-person Advancement

佐藤初雄(特定非営利活動法人 国際自然大学校 理事長)

崎野隆一郎(株式会社Hondaモビリティリゾート ハローウッズ プロデューサー)

山田俊行(トヨタ白川郷自然学校 学校長)

養老孟司(解剖学者・東京大学名誉教授)

野井真吾(日本体育大学教授・子どものからだと心・連絡会議 議長)

原山拓也(委員会事務局:にほんげんき株式会社 所属)

「新自然塾」推進委員会 設立趣意書

●過去から大切に受け継いできた社会を、未来へ繋ぎ持続させていくには、地域・社会を構成し形作る資質・能力を備えた「担い手」が絶えず連続する必要があります。私たちが今だからこそ、改めて取り組まなくてはならない「教育」の役割はここにあると考えています。教育こそが、私たちの共同体持続可能性の基礎であり、その資質・能力を身につけた担い手がいなくなってしまうと、共同体は持続できなくなるからです。

●現在、私たちの国では、インターネットの個人サービス開始から早30年が経過し、デジタル空間が社会インフラとして公的に提供されています。技術革新によって今までの仕事が静かに且つ急速にAIに置き換わっていく社会構造の変化が起き、企業は市場に対し新価値を創出すべく、同質機能価値の大量商品生産ではなく、唯一無二の体験価値商品の提供にシフトしてきています。それに合わせて組織の形は、指示系統権限が一人に集中した同質性が高いスタイルよりも、権限が自律分散され顧客の多様な価値創出に応えるスタイルに様変わり、従業員の働く場所や時間も自律的・主体的に選択ができるなどの変化が起きています。これは同時に不確実で流動性の高い社会に変化し、それが常態化してきていることを意味します。

●その為、市場にスピーディに対応すべく、企業は、即戦力として、不確実で流動性の高い社会にすなやかに向き合い、試行し、何度転んでも起き上がり再挑戦していく心身面からのタフな「回復力」(=レジリエンス)と、多様な仲間と対話を継続し統合共生していく「共感力」(=コミュニケーション力)のある人材を求めます。義務教育の現場もそれに応えるように、これまでの共通のゴールに向かう均質性の高い「揃った教育」から、教科横断的な探求型プログラムやギフトドと呼ばれる才能教育といった多様な条件で個別最適な自己実現とウェルビーイングを目指す「伸ばす教育」への質的転換が始まっています。

●しかし、このような“人材”や“能力”への要請は、時代や経済環境に合わせた需給の結果であり、どの時代でも流動的でその価値は定まっています。つまりその時代や環境によって変化する“人材”や“能力”への要請を、未来を見据えた人づくりの視点から、本質的に、ファンダメンタルにとらえる必要があります。

●私たちが活動の拠点としている自然のフィールドでも、雨風雪といった気象を含めた様々な環境の変化が、動植物には容赦なく平等に常に降りかかります。環境条件の不確実性は当たり前で、生命存続の危機的状況に陥る可能性のある環境に遭遇することは自然を相手にする生物にとっては日常茶飯事です。

●その中で、種と土と光と水といった基盤があれば、どんなに寒い冬でも、雪が解けて春が来て、必ず新しい芽が出てくるのです。生物はどんな環境でも種を繋ぐ戦略を立て、逞しい生命力で生き抜き続けています。

このように、今の子どもたちが自由闊達で愉快な共同体を未来に持続させていく基礎として必要なのは、どんな環境変化でも常に百年後の未来へ視線を上げ、したたかに現実に向き合い自律的に考え行動し自ら芽を出していくための、「成長と学びの基盤づくり」です。

●この基盤は、無限の可能性とつながり、自律的に仲間と愉快に幸せに生き抜く力になり、子どもたちが暮らす地域・社会を持続させ形作るための資質・人格の形成へと繋がっていきます。

●ここ数年、コロナ禍の影響もあり、子どもたちは空間や距離に縛られないwebの特性から進化してきたコミュニケーション領域でのデジタルデバイスの利用時間(スクリーンタイム)が増える一方で、運動会や修学旅行、地元でのスポーツ活動やお祭りなどの学校・家庭・地域が子供たちに提供してきた「生の体験(五感と身体と感情を伴う実体験・原体験)」の機会と場が激減しました(※1:この現象は、子どもたちの健康・睡眠・ウェルビーイングへの悪影響を危惧する専門家も多く、科学的な調査とデータをもとにした、現状の把握と、健やかな成長のためのスクリーンタイムガイドライン策定の研究に私たちも協力を始めています)。

●この「生の体験」の減少は、自分が所属する小さな世界以外と接触し、刺激や軋轢、衝突、対立、葛藤、緊張といった全人的な成長に必要な実践的な経験の機会喪失を招き、子どもたちの成長と学びの基盤劣化につながっています。その手当ては、待ったなしです。

●私たちが四半世紀にわたり子どもたちに提供してきた「長期キャンプ」は、自然の素晴らしさやキャンプの楽しさを伝えることだけが、主目的ではありません。

「未来に持続可能な社会の構成員となる子どもたちに対して私たちができることは、本質的な成長や学びの基盤(芯)づくりへの貢献である」と考えます。

私たちは、その全人的な教育力に注目し、「自然の中での長期キャンプを“未知で不確実だからこそワクワクする自然の中で、五感と身体と感情の生の体験を通じて真善美に触れ、仲間と共に生き抜くための本質的な成長と実践的な学びの基盤を子どもたちが獲得する機会と場である」と、位置付け、子どもたちに向き合い、提供してきました。

●この視点から、学校・家庭・地域の教育活動を補完する最善の選択肢(オルタナティブ)として、また、企業が地域・社会の一員として共同体の持続可能性へ貢献していく際の最良のパートナーとなることを目指してきました。

●このVUCA(※2)な時代の影響からか、アフターコロナ期だからか、レジャーや旅行だけの目的だけではなく、自然の中での生の体験を通じて真善美に触れ、仲間と共に生き抜くための本質的な資質の獲得を目指す長期キャンプへの参加を希望する子どもたちの数(その親御さんの数)が急激に増加しています。

●私たちは、この機を捉え、長期キャンプを通して、この国のすべての子どもたちが、百年後の世界でも自由闊達で愉快に生き抜くための、新しい日本人の本質的な成長と学びの基盤(芯)づくりへの貢献を加速させるべく、

①これまでに開発し実践してきた「自然の中での生の体験を通じて仲間と共に生き抜くために必要な基盤を獲得する機会と場を目指した長期キャンプ」の哲学と基本的な運営スキルを共有体系化及び、長期キャンプの指導者・運営者の人材育成活動

②官民学を問わず、全国の学校や社会教育施設、自然学校、その他教育施設、観光宿泊施設、研修施設など、全国の学校・地域・企業へ長期キャンプの実施メソッド提供・知見共有可能と実施支援活動

③持続可能な社会を目的とする視点から、日本全国の教育関係者へ向け長期キャンプの全人的な教育力を活用した本質的な成長と学びの基盤づくりのための普及啓蒙活動

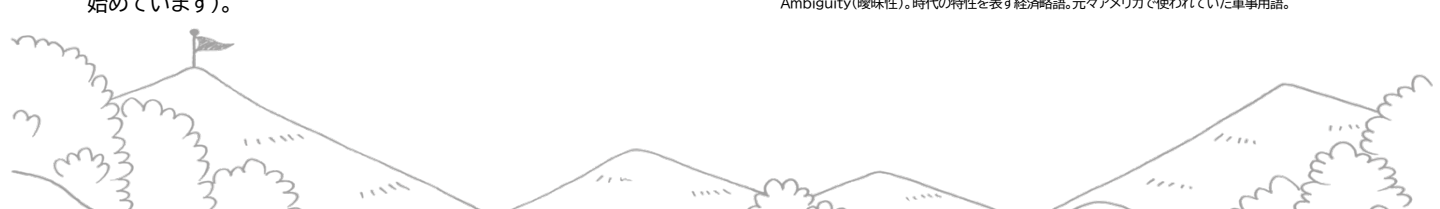
上記3つの活動を軸とした「新自然塾」推進委員会(仮)をここに設立します。

私たちの活動とその目的に、ご賛同賜り、是非お力添えをいただきたく、何卒宜しくお願いいたします。

2022年12月1日
「新自然塾」推進委員会一同

※1:国立研究開発法人国立環境研究所、日本体育大学 野井研究室ほかによる基礎研究「子どもの健康睡眠習慣を考慮したスクリーンタイム/グリーンタイムガイドラインの開発」

※2:VUCA=Volatility(変動性)・Uncertainty(不確実性)・Complexity(複雑性)・Ambiguity(曖昧性)。時代の特性を表す経済用語。元々アメリカで使われていた軍事用語。



「新自然塾(仮)」プロジェクト 活動3軸

①【官民学の多様なネットワークが協力共創する指導人材育成活動】

「自然の中での原体験を通じて仲間と共に生き抜く基盤を獲得する機会と場を目指した長期キャンプ」実施をゴールとし、その教育理念(哲学)と基本的な運営スキルを共有体系化及び、長期キャンプの指導者・運営者人材育成を実施

A>自然学校既存人材研修機関:「新自然塾」ネクストスタジオ(仮)

全国の自然学校既存職員やスタッフなど、自然体験学習を通じて学校教育を補完する「自然学校/長期キャンプ」の教育力と哲学の習得及び、自然体験指導者としての事業理念&アイデンティティ確立を目指す、育成スタジオ。短期的には業界を担い「長期キャンプ」「地域共創」の企画運営人材として、自然体験活動指導者としての実績経験年数に合わせ、心技体を育成する。

B>次世代人材育成機関:「新自然塾」キャンプアカデミー(仮)

全国の大学生・専門学校生・高校生を対象に、自然学校業界の次の担い手の育成にとどまらず、100年後の未来をしっかりと見据えた新しい日本社会の担い手としての“人格形成”塾。どんな環境変化でも常に百年後の未来へ目線を上げ、したたかに現実に向き合い自律的に考え行動し自ら芽を出していくための「成長と学びの基盤づくり」を目指す。

②【長期キャンプのプログラム造成/運営メソッドの支援・提供】

官民学を問わず、全国の学校や社会教育施設、自然学校、その他教育施設、観光宿泊施設、研修施設など、全国の学校・地域・企業へ長期キャンプの実施メソッド提供・知見共有と実施支援活動

③【「新自然塾」プロジェクト情報発信:全人的な教育力啓蒙活動】

持続可能な社会を目的とする視点から、日本全国の教育関係者へ向け、長期キャンプの持つ全人的な教育力を活用した本質的な成長と学びの基盤づくりのための普及啓蒙活動

↳2023年12月(仮)における「全国自然塾育成フォーラム」の開催

「新自然塾」 設立推進委員会 設立チーム



山田 俊行 (やまだ・としゆき)

1971年、鹿児島県生まれ。トヨタ白川郷自然学校 学校長。

高山市清見町「森林たくみ塾」に入塾。2004年10月NPO法人白川郷自然共生フォーラム理事就任。2015年4月より現職。自然体験を通じた次世代の指導者・リーダー育成と地域社会貢献を軸に、世界遺産「白川郷」で「一流の教育と感動」をテーマに2週間チャレンジキャンプなど、各種プログラムを子どもたちへ提供している。白川郷トレイルクラブ事務局、白川郷観光協会理事、ひだの未来の森作りネットワーク幹事など兼任し、飛騨高山白川エリアの地域課題解決、創生活動も展開。



佐藤 初雄 (さとう・はつお)

1956年、東京都生まれ。NPO法人国際自然大学校理事長。NPO法人自然体験活動推進協議会代表理事、公益社団法人日本キャンプ協会監事。1983年に国際自然大学校を設立して以来、子どもと大人に自然のなかでの冒険の楽しさを伝えている。環境省・文部科学省・農林水産省の各種研究会委員を歴任し、「次代を担う自立した青少年を育成するには自然体験活動が不可欠」として「教育・環境・健康・国際・地域振興」をキーワードに自然体験活動の提供を続ける、国内における野外活動指導の第一人者。



崎野 隆一郎 (さきの・りゅういちろう)

1957年、鹿児島県生まれ。本田技研工業株式会社 ハローウッズ プロデューサー/Honda woods 活動アドバイザー。1985年に然別湖ネイチャーセンターを設立し、北海道大雪山国立公園 然別湖畔にて冬季結氷した氷上にイグルー村、然別コタンを開村。1999年に自然活用アドバイザーとして本田技研工業(株)に参画し、2001年からHondaハローウッズの森にて、長期キャンプ「ガキ大将の森夏の30泊31日キャンプ」を毎年開催、これまで約400名の子どもたちに向き合い、子どもたちの全人的な成長の基盤づくりを実践。観光庁採択事業である和歌山県上富田町での森のワーケーションプログラム開発なども実施。



野井 真吾 (のい・しんご)

1968年、東京都生まれ。日本体育大学 体育学部健康学科 教授/子どものからだと心・連絡会議 議長。専門は教育生理学、発育発達学、学校保健学、体育学。子どものからだ、心、生活が「どこかおかしい」「ちょっと気になる」という保育・教育現場の先生方、あるいは子育て中のお母さん、お父さんの“実感”をたよりに、子どもの“からだ”にこだわって“事実”を明らかにし、その“実体”を追究する研究活動に努めている。現在、国立環境研究所、昭和薬科大学、九州大学他との共同研究「子どもの健康睡眠習慣を考慮したスクリーンタイム/グリーンタイムガイドラインの開発」の研究代表プロジェクトリーダーを務める。



養老 孟司 (ようろう・たけし)

1937年、神奈川県鎌倉生まれ。解剖学者。東京大学医学部卒。東京大学名誉教授。1989(平成元年)年『からだの見方』でサントリー学芸賞受賞。東京大学医学部卒業後、解剖学教室に入り、以降解剖学を専攻し医学博士号を取得。1981年より東京大学医学部教授を務め、東京大学総合資料館長、東京大学出版会理事長を兼任。1995年東京大学医学部教授を退官し、現在同大学名誉教授。京都国際マンガミュージアム名誉館長、NPO法人日本に健全な森をつくり直す委員会 委員長など、その活動は多岐にわたる。著書に『唯脳論』『バカの壁』『手入れという思想』『遺言。』『ヒトの壁』など多数。池田清彦との共著に『ほんとうの環境問題』『正義で地球は救えない』など。



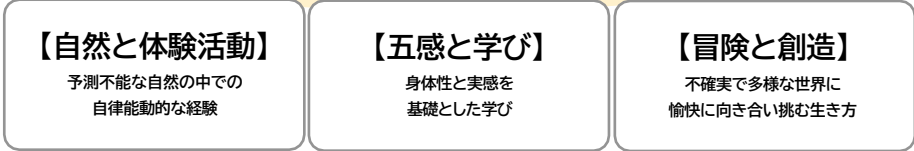
原山 拓也 (はらやま・たくや)

1970年、東京都生まれ。編集者。崎野隆一郎と長期キャンプ「ガキ大将の森夏の30泊31日キャンプ」の立ち上げに従事し、参加した子どもたちの様子をまとめたmook『森で遊ぼう』(ぴあ)を取材執筆編集担当し上梓。2016年より自然体験とデジタルプログラム学習を融合した『デジタルガキ大将キャンプ』を主宰。子どもの居場所への支援活動としてJA金沢市と子ども食堂への運営支援等、学びと成長の基盤づくりに対して活動など。東京トークン株式会社ファウンダー。

プロジェクト体制概略

JON 日本アウトドアネットワーク

- | | | |
|------------------------------|-----------------------------|----------------------------------|
| 1. NPO法人あそびんチャースクール | 26. (株)野外計画 | 51. NPO白川郷自然共生フォーラム |
| 2. NPO法人 どんごろ野外学校 | (株)プロジェクトアドベンチャージャパン | 52. ビッグマウンテンランチ |
| 3. R[アール] | 野外教育事業所フナク大学 | 53. PO法人 ホールアース研究所 |
| 4. 黒松内がなの森自然学校 | 28. 木庵舎 | 54. BSCウォータースポーツセンター |
| 5. NPO法人 いぶり自然学校 | 29. 日本自然医学会 | 55. 田舎舎 |
| 6. 自然遊(クラブ) | 30. 株式会社Jecウエルプランニング | 56. NPO法人 人生自然学校 |
| 7. イトノ 安比高原自然学校 | (公財)日野社会教育センター | 57. ポジティブアースネイチャースクール(PENS) |
| 8. くりこま高原自然学校 精英本校 | 33. NPO法人 国際自然大学校 | 58. 公益財団法人 青少年野外活動総合センター「友愛の丘」 |
| 9. 自然学校キッズ森のようちえん | 34. 株式会社リネックス | 59. 一般社団法人 のあつく自然学校 |
| 10. NPO法人 あつくまエクスネット | 35. 一般社団法人 あつく創造アカデミー | 60. ネイチャーミック |
| (株)モビリティランド ハローウッズ | 36. ナップアウトドアスポーツ株式会社 | 61. ウェストジャパンアウトドアスクール |
| 11. NPO法人 那須高原自然学校 | P-MAC野外教育研究センター | 62. 日本アウトドア・パワード 協会 尼崎市立美方高原自然の家 |
| 12. KAERU Adventure (株) | 38. NPO法人 湘南自然学校 | 63. NPO法人 朝田LOVER's |
| 13. アドベンチャー 集団Do! | 39. 立山自然学校 | 64. 有限会社エッセンシャルエデュケーションセンター |
| 14. チェアス自然体験学校 | 40. NPO法人 ガイア自然学校 とやま校 | 65. NPO法人 藤原しげむら |
| 15. 有限会社 トップス | 41. NPO法人 ガイア自然学校 | 66. くびき自然学校 |
| 16. 宮城蔵王自然学校 | (株)エコビジョンブレインズ | 67. NPO法人 自然スクールTOEC |
| 17. ヤックス自然学校 | 43. 能瀬高原ネイチャーセンター | 68. 体験活動協会F&A |
| 18. NPO法人 千葉自然学校 | 44. NPO法人 やまほろし自然学校 | 69. 株式会社 フリーキャンプ |
| 19. NPO法人 アドベンチャー ジャパン (NAJ) | 45. NPO法人 樹洞アウトドアプロジェクト | 70. 一般社団法人 アイオーバーイー |
| 20. ELFIN体験共育くらぶ | 46. 一般財団法人 野外教育研究財団 | 71. 自遊庵 |
| 21. トムソークラブ | 47. NPO法人 ありあけ育遊舎 | 72. (有)屋久島野外活動総合センター |
| 22. NPO法人 東京おもしろ野外学校 | 48. NPO法人 グリーンウッド自然体験教育センター | 73. 特定非営利活動法人 くすの木自然館 |
| 23. トリファンズアウトドアフェスティバル | 49. (株)ONTOLOGYS | 74. ぶらぶら自然学校 |
| 24. 日本児童野外活動研究所 | 50. アウトドアサポートシステム | 75. やんばる エコリズム 研究所 |

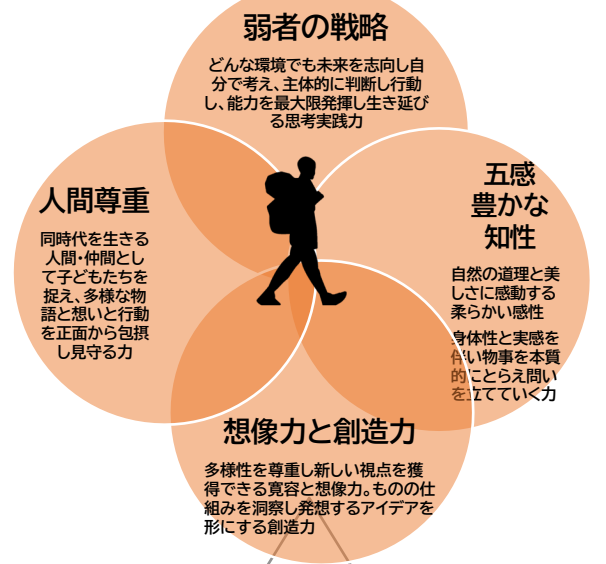


選抜有志スタッフ参加



次世代を担う人材育成プロジェクト
「新自然塾」
 カリキュラム造成+運用部会

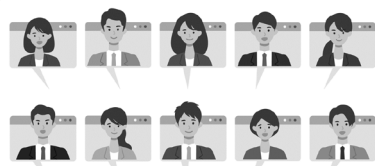
求める人材像=「新自然塾」教育理念
 (長期キャンプ運営哲学)



長期キャンプのプログラム・カリキュラム造成
 運営メソッドの支援・提供



理念の拠り所: 招聘講師陣
 アクティブラーニング/ワークショップ



自然体験活動指導者共創交流会
 「新自然塾 全国フォーラム」

自然学校既存人材研修
 カリキュラムA造成

【新自然塾ネクストスタジオ】
 校長: 山田俊行

- 対象: 自然学校既存職員やスタッフほか
- 目的: 学校教育を補完する「自然学校」哲学習得と、自然体験指導者としての事業理念&アイデンティティ確立
- ・短期的に業界を担い「長期キャンプ」「地域共創」の企画運営人材として、自然体験活動指導者の実績経験年数に合わせ、心技体を育成する
- ①1~3年目: リーダー研修
- ②4~5年目: 企画ディレクター(インストラクター)研修
- ③6年目以降: マネージャー(コーディネータ)研修
- カリキュラム骨子
- ①NEALカリキュラムでの資格取得
- ②長期キャンプの教育力習得
- ③長期キャンププログラム造成ノウハウ習得
- ④組織での労務/人事管理/ほかヒト・モノ・カネのマネジメントスキル習得
- ⑤地方課題の解決型創生商品企画のスキル習得

■カリキュラム造成期間
 2024年6月~9月

■開講
 2025年4月開講
 全40回(1コマ2時間)

■想定フィールド
 TOYOTA Shirakawa-Go Eco-Institute
 トヨタ白川郷自然学校
 ほか、安藤百福記念 アウトドア アクティビティセンター、ライジングフィールド軽井沢など。

次世代人材育成
 カリキュラムB造成

【新自然塾キャンプアカデミー】
 校長: 崎野隆一郎

- 対象: 大学生・専門学校生・高校生
- 目的: 自然学校業界の次の担い手の育成にとどまらず、100年後の未来をしっかりと見据えた日本社会の担い手としての“人づくり”と、どんな環境変化でも常に百年後の未来へ目標を上げ、したたかに現実に向き合い自律的に考え行動し自ら芽を出していくための「成長と学びの基盤づくり」。
- カリキュラム骨子
- ①自然の中での成功体験・失敗体験を身体で体験し自身の可能性を探り広げる
- ②想像力と創造力を磨く
- ③考える力を養う
- ④仲間との協働で思いやりと協調性を考える
- ⑤ナイフ・火・バイク・気球・チェーンソー・重機・気球・カメラなど、道具を使いこなす
- ⑥農・食・排泄・睡眠から生命と脳を身体で考える

■カリキュラム造成期間
 2023年6月~9月

■インターン募集開始
 2025年10月~

■開講
 2024年4月開講

■想定フィールド



「第1回 新自然塾 全国フォーラム(仮)」の開催について

背景

●本田技研工業株式会社ハローウツ崎野氏/トヨタ白川郷自然学校 山田氏/国際自然大
 学校 自然体験活動推進協議会理事 佐藤氏
 > コロナ禍で経験した社会が求める「生命と触れるリアル体験」の提供
 > 自然体験をこどもたちに安全に提供できる指導人材の育成
 > これから先100年後を支え社会のバトンを渡していく新しい日本人の基盤貢献
 上記、養老孟司先生も賛同し、立場や所属を超えてここに思いを一つにして、実現へ向けて
 「新自然塾 プロジェクト」として集合

●文科省/国立青少年教育振興機構
 ・デジタルとリアルの両軸で、日本の子どもたちに良質な体験を提供し、子ども・家族・日本人
 のウェルビーイングと持続可能な社会基盤を実現するべく、2022年を「体験活動元年」と
 位置付ける

・持続可能な社会基盤を実現多様な組織との共創(オープンイノベーション)と人
 材交流の推進

●企業
 人的資本経営の考え方にたち、自律的、主体的に動き、事業を生み出し、生産性・収益・価値の
 最大化を図る人財への期待。

目的

①官民学の多様なネットワークが協力共創する長期キャンプを中心とした
 自然体験指導人材の育成活動

↳自然体験を通じて仲間と共に生き抜く基盤を獲得する機会と場である長期キャ
 ンプ」の実施実績からその哲学と基本的な運営スキルを共有体系化

②長期キャンプ実施プログラム/カリキュラム/メソッドの支援・提供・情報共有
 ↳官民間問わず、全国の学校や社会教育施設、自然学校、その他教育施設、観光宿泊
 施設、研修施設など、全国の学校・地域・企業へ長期キャンプの実施メソッド提供・知
 見共有と実施支援活動

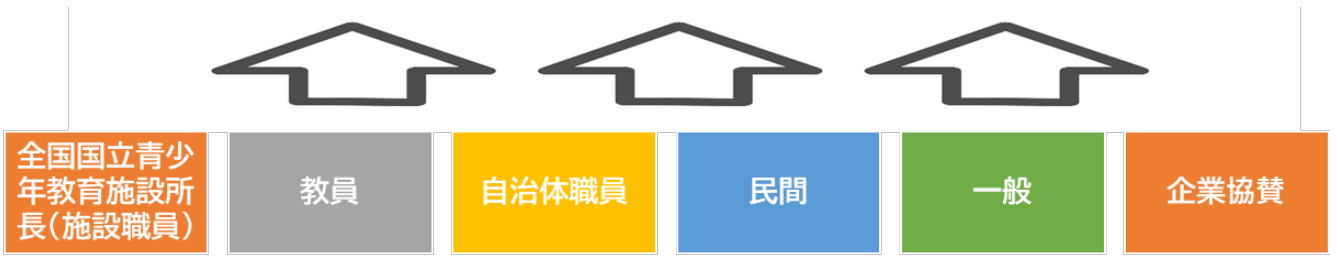
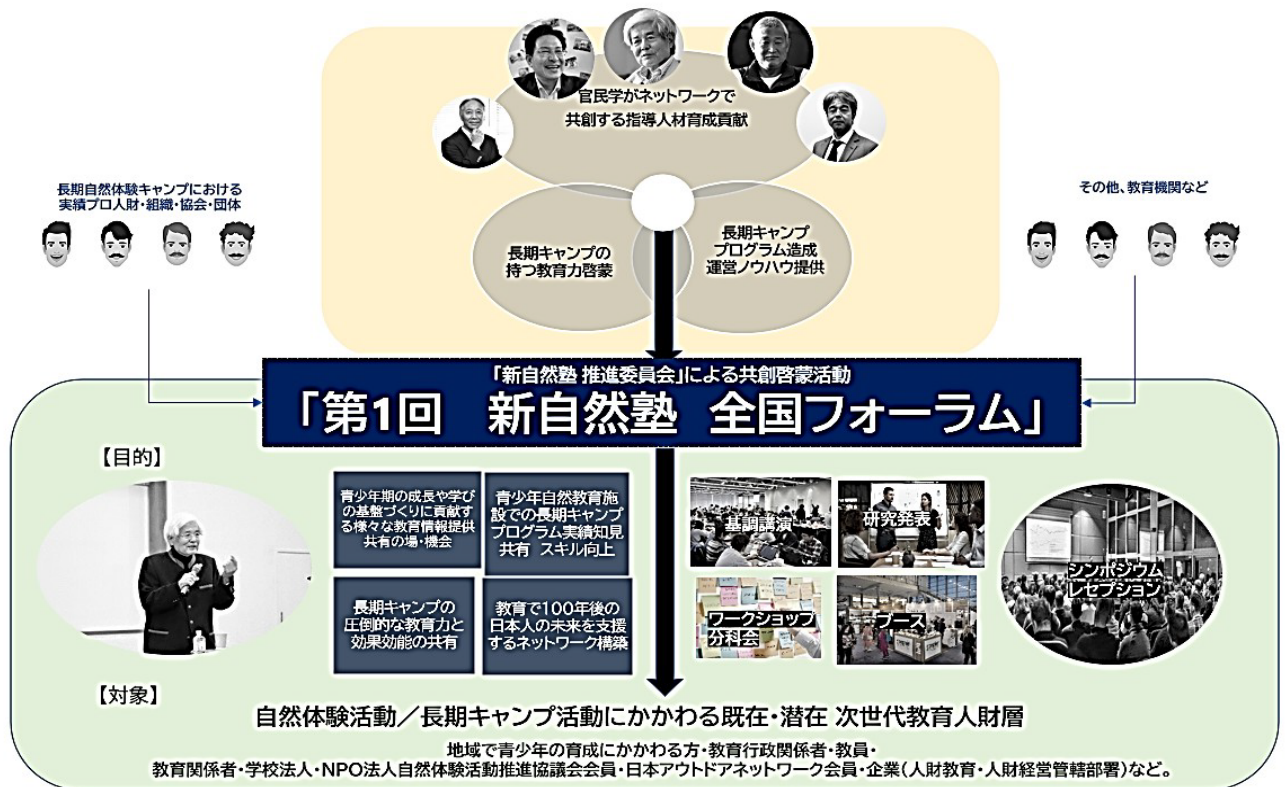
③「新自然塾」情報発信/長期キャンプの教育力啓蒙活動

【成果】

↳長期キャンプカリキュラム・プログラムの共同開発・実施

自然体験活動を通じて子どもたちが獲得する“成長と学びの基盤”に
 貢献する圧倒的な教育力を備える長期キャンプの普及啓蒙活動の実施

行政/アカデミア/CONE/JON/全国自然学校/企業の人財経営管轄部署など
 立場の垣根を超え、教育から100年後を支えるネットワークの構築



Our Prospectus and Request for Cooperation

- In order to link, pass on, and sustain the society carefully inherited from our older generations, to the future generations, we always, constantly need “key players” having talent and ability to develop and shape their local communities and societies. We are convinced that “education” plays an important role in this and now this education needs to be reconsidered one more time by our generation. Education is most fundamental for us to build sustainable communities since if those key players with talent and ability were not raised in the community, the community would lose its ability to last.

- Now, in Japan, 30 years have already passed since its internet services became available to individuals, and digital spaces have been available to the public as social infrastructure since then. While the social structure has been changed by technical innovation, which means AI replacing the existing jobs unnoticeably, rapidly, businesses have been required to be shifted from the mass production of similar products to delivering unique products focusing on one-of-a-kind experience and higher customer satisfaction in order to create its new values in the market. Correspondingly, the shape of organizations has been drastically shifted to a decentralized structure where the power is autonomously distributed to create various types of customer’s value. Consequently, our workstyle has been changed in such a way that workers are given more flexibility than before to choose their places and time to work independently and proactively. At the same time, this means that our society has been shifted to a different type of society where everything is uncertain and is always subject to change, and that this has already been normalized.

- Because of this shift, the corporates are required to promptly adjust to market changes and find and keep work-ready talents who are capable of: flexibly dealing with the society with high uncertainty and fluidity; trying new approaches; having physically and mentally powerful “recovery skills” (resilience); and having “a sense of empathy” (communication skills). Correspondingly, our compulsory education system has started being changed in terms of quality, from the “standardized education system” where all students aim at the same goal under the standardized education to an “improvement-focused education system” where every student aims at their own self-realization and high well-being by various learning methods optimized for themselves, like a cross-curricular, an inquiry-based learning program and talent-focused education called gifted and talented education.

- **However, the demand for these “talents” and “abilities” reflects the trend and economic environment, and thus the demanded values vary, and they are not always constant in every era. That means, from this perspective of the whole-person development looking to our success in the future, we are required to recognize that it is essential and fundamental to look for different “talents” and “abilities” depending on each era and each environment.**

- Similarly, in the natural world where we exist, animals and plants are always, relentlessly, and indiscriminately exposed to the risks of various types of environmental changes such as weather conditions: rain, wind, and snow. There is always uncertainty in environmental conditions. The surrounding environment can put those animals and plants in a potentially fatal situation anytime, and it won’t stop threatening those who live in this natural world.

- However, even in this world, we are blessed with the fundamentals of nature, such as: seeds, soil, sunlight, and water. No matter how harsh the winter is, the snow always disappears, and spring always returns, and eventually we can always see the new buds sprouting, always. In any type of situations, the animals and plants always can find out their ways to save their own species for the future prosperity and to obtain tough vitality required to survive.

- As described above, **what is required to build the foundation within the young generations to sustain its democratic, free, open-minded, and exciting communities for the future, is to “build a foundation of a development and learning system” where no matter how drastically the environments surrounding the youths change, those youths can always keep looking towards the future 100 years from now, carefully but flexibly deal with their realities while persevering with the difficulties, and independently think, take actions, and bloom their own talents despite failures.**

- This foundation will bring out infinite possibilities and power in the youths, which are required for the youths to independently survive and live their enjoyable lives with their peers. Further, this foundation will lead to the development of their talents and personalities which are essential to sustain local communities and societies where those youths will spend their lives.

- In recent years, due to the coronavirus pandemic, the youths are spending more time on their digital devices (screen time) for the purpose of communication utility that has evolved due to its characteristics of the Web where space and distance do not matter to its utilization. On the other hand, those youths are exposed to surprisingly less opportunities and places where they can gain “real-world experience (physical, emotional, real-life, and formative experience gained using their five senses)” that have been traditionally provided by their schools, family,

and local communities, as well as by school’s sports day, school trips, local sport activities and festivals.

- This decline in the opportunities to gain the “real-world experience” takes away from the youths, their opportunities to get to know about the outside of their small worlds where they spend most of their time, as well as opportunities to gain real-life experiences, such as: simulation, conflicts, confrontations, and tension, which are essential for those youths to have their personal growth. This decline leads to deterioration in the quality of the foundation that are supporting those youth to achieve their personal growth and learning.

- “Long-term camping” we have been offering to the youths over this quarter century was not only designed to show the beauty of nature and its joy of camping to them.

- **We rather consider it as “What we can do for those youths who are going to be the members of this sustainable society in the future is to help build a foundation (core) within themselves for their essential personal growth and learning.”**

- We have been focusing on our education system which is for the whole-person development, and we have defined that “The long-term camping in nature is an opportunity and place for youths to learn truthfulness, goodness, and beauty through the physical, emotional, and real-world experience using their five senses and to build a foundation within themselves for their essential personal growth and practical learning, which is required to survive together with their peers in this physical world which has ‘unknown’, uncertain but exciting factors to the youths”. So, we have kept communicating well with the youths and offering these opportunities and places to them.

- From this perspective, we have been trying to be one of the best options (alternatives) which can complement education activities offered by schools, family, and local communities to the youths and be one of the best partners for the corporates which are trying to contribute to developing sustainable communities as members of the local communities and societies.

- Whether it is because we are in the times with high VUCA or because we are in the post-covid-19 era, the number of youths has been soaring, who have applied for participation in our long-term camping (This also means the number of parents) which aims to learn truthfulness, compassion, and beauty through the real-world experience in nature and aims to develop essential talents within those youths, which are required to survive together with their peers.

- We accelerate our contribution to building the foundation for the essential personal growth and learning for the new Japanese by the following practices:

① **sharing and systematizing our philosophy and basic management skills that have been used in “long-term camping which aims to be an opportunity and place for youths to develop a foundation necessary to survive with their peers, through real-world experience in nature”; and organizing activities to develop talents expected to be the leaders and managers of this long-term camping,**

② **teaching and sharing our implementation methods of the long-term camping with, and organizing implementation-support activities for schools, local communities, and corporations throughout Japan, such as: schools and social education facilities all over Japan, nature classrooms, other types of educational facilities, tourism accommodations, and learning centers, and**

③ **organizing activities to spread the awareness of this project to educators across this country, which is designed to build the foundation within the youths for essential personal growth and learning, utilizing our whole-person development education system of the long-term camping, from the perspective of building a sustainable society.**

Here, we establish “Committee for Brand-New-Japanese Advancement” based on the above three practices. We would greatly appreciate your cooperation for our practices and achieving the goals. Thank you very much for your time and consideration.

